

DAFTAR ISI

KATA PENGANTAR.....	i
DAFTAR ISI.....	iv
BAB I PENDAHULUAN.....	1
1.1 Latar Belakang Masalah.....	1
1.2 Pembatasan Masalah.....	5
1.3 Tujuan Penelitian.....	5
1.4 Metodologi.....	6
1.5 Organisasi Penulisan.....	8
BAB II MORI OGAI.....	10
2.1 Riwayat hidup Mori Ogai.....	10
2.1.1 Riwayat pendidikan.....	10
2.1.2 Riwayat pekerjaan.....	14
2.1.3 Kehidupan pernikahan.....	17
2.2 Kehidupan Mori Ogai selama berada di Jerman.....	19
2.2.1 Pertemuan Mori Ogai dengan kalangan masyarakat berstatus sosial tinggi di Jerman.....	20
2.2.2 Keadaan kota yang pernah dikunjungi Mori Ogai.....	23
BAB III ANALISIS.....	26
3.1 Pekerjaan Kobayashi.....	26

3.2 Pergaulan Kobayashi dengan kalangan berstatus sosial tinggi	
di Jerman.....	31
3.2.1 Pertemuan Kobayashi dengan bangsawan-bangsawan Saxony.....	31
3.2.2 Perayaan dan pesta yang dihadiri Kobayashi.....	37
3.3 Perjudohan.....	41
3.3.1 Perjudohan di kalangan bangsawan Saxony.....	41
3.3.2 Pemikiran liberal Putri Ida mengenai pernikahan.....	45
BAB IV KESIMPULAN.....	52
SINOPSIS.....	vi
DAFTAR PUSTAKA.....	xi
RINGKASAN CERITA.....	xiii
LAMPIRAN.....	xviii
RIWAYAT HIDUP PENULIS.....	xix

短編『文づかひ』に反映される森鷗外の生活

リスカ クリスティ

0342006



マラナタ キリスト教 大学

文学部

日本文学科

2007

短編『文づかひ』に反映される森鷗外の実生活

序論

文学は人間の生活から切り離すことのできないものである。文学は想像的な別世界を生み出すことができるので、コミュニケーションの媒体としてだけでなく、娯楽の媒体としても役割を果たしているのである。

文学作品は単にフィクションを土台に書かれたものだけではなく、作者自身の実生活を物語るものもある。1891年1月に書かれた森鷗外の『文づかひ』には鷗外自身の実生活を反映する要素が多く見られる。本論文は鷗外の『文づかひ』に反映される鷗外自身の実生活を分析するものである。分析にあたっては、エクスプレシブ・アプローチを使うことにする。

本論

『文づかひ』は独逸へ派遣され、ザックセニ軍隊の機動演習に参加した森鷗外の経験を語る。その鷗外の実生活は人物である小林を通して反映される。

1. 小林の職業

小林はザックセニ軍団につけられた日本の少年士官であり、秋の演習に参加した。彼がザックセニにいるのは国の任務によるものである。

鷗外もザックセニの12師団の秋の演習に参加した。ザックセニは独逸の州の一つ、東方に位置するのである。鷗外も医学及び、医務の管理に関することを学ぶために独逸に派遣されたことがある。これは次の文から見ることができる。

一月中旬に入りて昇進任命などにあへる士官とともに、奥のおん目見えをゆるされ、正服着て宮に参り、...

(文づかひ：407)

2. 独逸の地位の高い階級との小林の交際

2. 1 ザックセニ貴族と小林の出会い

小林は隊と共に演習に参加した時、メエルハイムやビュロオ伯やイイダ姫などザックセニ貴族と出会い、交際したのである。更に、彼はザックセニの国王に紹介された。大隊長と共に上流階級と知り合うようになったのである。

鷗外もビュロオ伯やイイダ姫というビュロオ伯の娘など貴族と出会ったのである。彼もアルベルト王というザックセニの国王に紹介されたのである。鷗外が演習に参加したのは友達になったウィルヘルムロツ大将というザックセニ医学部の軍隊の隊長の推薦なのである。ロツとの友好は鷗外がザックセニの上流社会階級と知り合うきっかけになったのである。

ビュロオ伯は常の服とおぼし黒の上衣のいと寛きに着更へて、伯爵夫人とともにここに居り、かねて相識れる中なれば、大隊長と心よげに握手し、われをも引合はさせて、胸の底より出づるやうなる声にてみづから名告り、...

(文づかひ：392-393)

2. 2 小林が出席する祭りと宴会

小林は秋の演習に参加した後、隊と共にドレスデンへ戻ったのである。彼は新年の祭りに出席する以外に、舞踏会にも招かれたのである。鷗外もドレスデンの新年に、王宮の祭りに出席し、多くの舞踏会に招かれたのである。ドレスデンの王宮によく出入りし、極上流の社会と交際したのはその時だったのである。

国王の新年ははなばなしく、足もと危なき蠟磨きの寄木を踏み、国王のおん前近く進みて、正服うるはしき立ち姿を拝し、それよりふつか三日過ぎて、国务大臣フォンファブリス伯の夜会に招かれ、...

(文づかひ：407)

3. 見合い

『文づかひ』にある見合いは森鷗外の見合い結婚と関連する。森鷗外の姿は人物である小林によって反映されるだけではない。鷗外はイダ姫を通して、見合いについて、ザックセニ貴族の生活を背景にして、自分の感情と考えを表現するのである。『文づかひ』は鷗外が見合いの経験をしたしばらく後の、1891年1月に書かれたものである。

3. 1 ザックセニ貴族における見合い結婚

ザックセニ貴族における見合いは明瞭に描写されている。イイダ姫の姉というフォンビュロオの娘と国務大臣ファブリス伯の子の結婚で始まった。その結婚は貴族という同階級の二つの家族を巻き込む。これはイイダ姫に続いている。彼女は軍人で貴族出身であるメエルハイムと結婚を強いられるのである。しかし、イイダ姫はその見合いを悔やんでいたのである。親に選ばれた男・メエルハイムがぜんぜん愛しないからである。

鷗外の場合、アカマツトシコと一緒に暮らすのは強制されたようなものである。彼は一人の独逸少女に愛を犠牲にし、自分が愛をないトシコという親が妥当だと思ふ女性と結婚した。しかし、彼らの関係は愛に基づいていなかったため、鷗外は結婚生活を営む振りをすることができなかったのである。結婚の絆は一年半だけ持ち堪えて、その間にも、鷗外はとても苦勞して、幸せではなかったのである。その愛情は鷗外の心の中では育たなかったものである。

我とてもその直ぐなる心を知り、貌にくからぬを見る目なきにあらねど、年頃つきあひしすえ、わが胸にうづみ火ほどのあたたまりも出来ず。ただ井筒厭ふにはゆるは彼方の親切にて、ふた親のゆるしし交際の表、かひな借さるることもあれど、ただ二人になりたるときは、家も園もゆくかたもなう鬱陶せく覚えて、こころともなく太息せられても、かしら熱くなるまで忍びがたうなりぬ。何ゆえと問ひたまふな。そを誰か知らむ。

(文づかひ：413－414)

3. 2 結婚に関するイイダ姫の自由な考え

イイダ姫とメエルハイムの見合いはイイダ姫の二親に望まれ、何百という年の間に行われた家族の名誉を守るためである。しかし、イイダ姫はそんなことに対して、自分の考えがあった。イイダ姫にとって、結婚は愛情に基づくべきものでなければならないのである。小林とその部隊がイイダひめの住居に泊まった時、彼女は小林に助けを求めて、国务大臣ファブリス伯の夫人というイイダ姫の伯母に文を届けるように依頼したのである。その文は王宮に勤められるように請願するものである。メエルハイムとの見合い結婚を避けるためという目的である。イイダ姫は小林にメエルハイムとの見合いについての考えと感情をあらいざらい物語ったのである。ファブリス夫人に宛てられたイイダ姫の文は自由をしぼる習慣に対するイイダ姫の拒否の恰好となり、親の希望に対する拒否の恰好でもある。

鷗外の場合、彼には侍の血筋があり、家族は代々の名高い地区医者である。一人の独逸少女とのつながりは彼の家族が大反対するものである。両親にとって、日本人の国籍の女が鷗外にもっとも相応しいのである。アカマツトシコを離れて、離婚した鷗外の決定は親の希望に対する鷗外の拒否である。

されど貴族の子に生れたりとて、われも人なり。いまいましき門閥、血統、迷信の土くれと看破りては、我胸の中に投入るべきところなし。...この習慣の外にいでむとするを誰か支ふべき。

(文づかひ：414-415)

結論

1. エクスプレシブ・アプローチを使って、『文づかひ』にある森鷗外の実生活を証明することができた。
2. 『文づかひ』において独逸での森鷗外の職業や演習に参加したやザックセニ貴族階級との交際は登場人物である小林を通して、明瞭に反映される。
3. 『文づかひ』に森鷗外の姿は登場人物である小林だけではなく、イイダ姫という登場人物を通しても見ることができる。見合いに関するイイダ姫の自由な考えと感情は鷗外の実際の考えと感情を代表するのである。

LAMPIRAN

Peta Jerman



Peta Saxony



RIWAYAT HIDUP PENULIS

Nama : Risca Christhie

Tempat/ Tanggal Lahir : Purwakarta/ 5 April 1985

Agama : Katolik

Alamat : Jl. Raya Sukatani no. 9, Kp. Cimanglid, Bendul –
Purwakarta

Pendidikan :

1991-1997	SD Yos Sudarso, Purwakarta
1997-2000	SMP Yos Sudarso, Purwakarta
2000-2003	SMU Santa Angela, Bandung
2003-2007	Universitas Kristen Maranatha, Bandung